

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800610		
法人名	有限会社 桜の里		
事業所名	グループホーム桜の里		
所在地	三重県度会郡玉城町139-3		
自己評価作成日	平成28年1月25日	評価結果市町提出日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2015\\_022\\_kihon:true&JijyouVoCd=2472800610-008&PrefCd=24&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kihon:true&JijyouVoCd=2472800610-008&PrefCd=24&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 28 年 2 月 10 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境に事業所があり、入居者様には毎日安心して穏やかに暮していただけるように入居者様の生活歴や要望を理解し、ご家族様・主治医と協力してサポートしている。近隣には、保育所や小学校もあり、園児の散歩コース・小学生の通学路になっている。当施設では、ターミナルケアもしており、主治医やご家族様と連携のもと、本人・ご家族様の要望に応えられるよう職員が一丸となって努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな田園風景が広がる環境の中にあり、事業所の敷地内には果樹園(栗の木、さくらんぼの木)と農園がある。心わくわくする生活・人らしく輝いて共に生活・人生の先輩であるお年寄りが共に生活する事を、自分に置き換えて支援している。普段、今までやってきた個々の生活歴を大切に、押し付けず・無理押しせずに、本当にしたい事を自由に個人に任せている。管理者・職員は毎日、利用者の表情・行動等状態を把握し、日々会話を通じ安心感が常に保たれる様見守りに注力し、支援続けている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内各所に、理念である「あきらめない」を提示し、いつでも確認できるように努めている。また、実践に努めてもらうように入社時には、理念から説明している。	現場でその都度、目の付く様に玄関、事務所に掲示している。理念は人と接する中で忘れてはならない事として、常に意識し一日一日を大切に実践共有している。	利用者個々が、より安心して生活できる場所として具体化の策定に取り組み、職員間で話し合いをもったり、読み込んだりする機会を持つ事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭り、保育所の行事へ入居者様と参加して交流に努めている。事業所の行事には、ボランティアを受け入れ、施設をオープンにしている。	事業所の行事に地域住民が参加したり、保育園児の作品を事業所内に展示したりして住民が来訪している。また、草刈りの参加、地域の祭り、保育園の行事に参加交流している。前の道路が保育園児の散歩コースであり、利用者は声掛けし子供達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議など集まりには積極的に参加し、当施設で行っている支援内容などを地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。入居者様・ご家族様・主治医・民生委員・介護相談員・包括支援センターの方にも参加してもらい活動報告をしご意見などを聞かせていただいている。	併設のグループホームと合同で2ヶ月毎に開催され、開催記録も事細かく記録されている。包括センター職員、家族、介護相談員、民生委員、主治医と数多くのメンバーで構成され活発に意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、地域の相談員に来所していただきアドバイスをいただいたり情報交換に努めている。地域ケア会議などにも積極的に参加している。	代表が月1, 2回定期的に市担当者に訪問し連絡を密に取り合っている。包括主催の地域ケア会議に参加したり、認知症カフェを市担当者と相談し立ち上げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設の勉強会で身体拘束の防止を学び日々実践している。日中、玄関には鍵をしない。	毎月、勉強会で取り上げ、拘束事例、なぜ拘束はダメなのか等の資料を用い、虐待防止を含めた拘束をしない実践を行なっている。言葉の拘束も無い様に言葉づかいに気をつけ職員間で周知している。	
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入浴・更衣時に身体観察を行い、虐待が見過ごされないように注意をしている。施設外でも虐待を見過ごさないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やケア会議などで学ぶ機会を設けている。個々の必要性に応じて話し合いや関係機関に相談できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・各種契約書を読み、説明している。疑問に思われることは、その都度質問してもらい理解と同意をしていただいている。また後に疑問に思われるところがあれば気軽に相談していただくように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様来所のたびに入居者様の近況報告を行いより良い関係を築けるように意向や希望を聞き反映に努めている。	家族からは運営推進会議、面会時、また、利用者には入浴時等、一対一の会話の中から把握している。桜だよりを個人別に作り職員が意見・状況を記入し、毎月家族に送り意見交換の場となっている。介護相談員からも毎月訪問後の結果報告がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取り意見や要望を言いやすい環境を作っている。また、申し送りや月1回のカンファレンス会議の時に話し合い、質の向上に努めている。	職員と常にコミュニケーションを取る方法を考え、日常ケアの中で声掛けしたり、ケア以外での交流も大切にしている。最近は農園が小さいので畑を増加してはどうかとの提案があり反映された。毎月、役員会があり相談する機会の場も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月役員会を実施し、代表者と共に当施設の現状、要望や職員の勤務状況などを話し合っている。労働条件・給与水準等、職員が個々にやりがいを持てるように改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも積極的に取り組み、研修後は研修報告書にまとめ施設内勉強会で発表している。いつでも閲覧できるようにファイルにまとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着サービス協議会の研修会や包括支援センター主催の集いの場などに参加し交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族様と話し合い、不安なことや要望に耳を傾け、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族様が不安に思っておられることや要望等を聞き、これから共に入居者様を支えていけるような信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時にご本人やご家族様の思いやご希望、生活・経済状況などを含め話し合い、今一番何を必要としているかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩とし、家族の一員としてお互いに支えあい日々喜怒哀楽を共有し意見を出せる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来所時や毎月のお手紙で日々の様子を伝えている。また、必要な時はご家族様にもご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力などでこれまでご本人が利用されてきた美容院やスーパーなどへ出かけこれまでの関係が途切れないように支援している。	美容院、馴染みのスーパー、化粧品店、自宅への(盆、正月)外泊等、かけがえのない人・場所等、一人ひとりについてそれを繋げる支援について常に考え、実行出来る体制づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や人間関係など全職員が把握し情報を共有して、入居者様同士が良好な関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により他の施設に移られた方がお亡くなりになられた際にはお悔みに伺うと共に労いの言葉をかけている。また退去された入居者様のご家族様が布地を届けがてら会いにきて下さったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にできるだけ寄り添い何に困っているか、何を望んでいるかを把握するように努めている。また、把握困難な入居者様についてもご家族様に生活歴や意見などを聞いている。	アセスメント票を利用し更新しながら絶えず声掛けをする事により、傾聴に心掛けている。把握した希望・意向は介護記録に記入し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にご本人やご家族からこれまでの生活歴や大切にしている物などを聞き、日々の様子の把握に努めると共にケアプランに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりしっかりと向き合い、できる事、わかっている事を見つけ生活リズムや生活習慣を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から日頃の関わりの中から細かく意見や要望に耳を傾けカンファレンスで意見交換を元に全員で課題を見つけ出し介護計画を作成している。	計画書はセンター方式により利用者の基本情報が把握しやすく、経過評価記録票を毎月記入し、3ヶ月毎に全職員参加でサービス担当者会議を行い見直しを行っている。家族には訪問時に意見・意向を把握し、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子を介護記録や身体チェック表に記入し体調の変化や細かい気づきなどや実践した事を具体的に記入している。介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況、要望に応じた上で買い物、散髪、通院など行っていただけるように努めている。食事面では個々の状態に合わせた食事形態を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員との意見交換や当施設の祭りにボランティアの方にも協力してもらっている。また、保育所の運動会にも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望を優先し主治医を決定している。協力医は月2回の往診と個別に月1回の往診をし、24時間対応で緊急時、夜間も対応してもらっている。	契約時に家族に説明し協力医に変更している。協力医からは定期往診2回、個別往診1回と毎月3回は健康診断されている。診断結果は「桜の里だより」と共に家族に送付している。また、協力医は夜間対応もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医である神戸クリニックの看護師とは気軽に相談できる関係が構築されている。訪問看護が来た時に健康状態や気づいたことを細かく報告し介護記録に記入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は情報提供し職員が定期的にお見舞いに伺いご家族様や医師、看護師から情報をいただいている。早期退院ができるように努めている。退院後の生活について助言をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針を作成しご本人やご家族様と話し合い、わかりやすく説明し意思の確認を行っている。また、終末期には主治医・ご家族様・職員で話し合い当施設でできる最大限の支援を提供できる体制を整えている。	契約時に看取り介護指針に沿って家族に意向を聞き、その状態に陥った時に再度、主治医を交えて話し合い同意を得ている。また、職員は年1回、看取りについての勉強会を開催しチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え緊急時対応マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が防火自主点検項目表を記入し、防火管理者と共に年2回の避難訓練を実施している。また、出勤者は通報・消火・避難誘導の役割を毎朝確認している。	防災管理者が年2回、通報・避難・消火訓練を実施しているが、特に台風の影響が大きく避難訓練に注力し、役割を決め行なっている。	日頃から全職員一人に対応出来る訓練を実施し、特に夜間想定訓練を実施し各訓練の結果、問題点、反省点を記録し今後の課題を検討される事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応時は、常に人生の先輩として尊敬し、笑顔で穏やかに話しかけプライドを傷つけないように支援している。	言葉使いと愛情を持ち、尊敬する事に気をつけて、丁寧語を使い、呼称は下の名前でさん付けで行なっている。また、利用者の写真等を掲載する時は家族に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と日々を過ごすなかで話などをして、思いを聞き取り、自己決定できるように複数の選択肢を提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや希望を優先し出来る限り支援できるように職員全員、日々努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方にはご自身でしていただき自己決定が難しい方には、ご家族様の要望などを踏まえ職員と一緒に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回ある自炊の日に入居者様からリクエストを聞いてメニューを決めている。また職員も同じテーブルに座り同じ物を食べ、一緒に食事を楽しんでいる。	併設するデイサービスの調理師が調理した同じ食事を利用しているが、ご飯・汁物類は職員が作っている。また、日曜日の昼・夜・月曜日の夜は利用者と一緒に食材の買い出しに行き、好物のメニューを決めている。職員は一緒に食事をしながらゆっくりと見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量、食事摂取量を記録している。また、水分・食事量が不足している時は、時間に関係なく取っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全職員は理解し、出来る方は自分でしていただき、難しい方は職員によりケアさせていただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員の排泄チェック表を作成し、個々にあった排泄パターンを職員は把握している。できるかぎり自己排泄ができるようタイミングをみながら声かけや誘導を個別に行っている。	排泄のパターンを把握し、2時間置きに声掛けし誘導を行ない、トイレでの排泄を原則としている。夜間はポータブルトイレを利用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含む物を摂取していただき適度な運動を促がし自然排便が出来るように取り組んでいる。また主治医とも連携を取り便秘予防や下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様は可能な限り好きな時間に入浴できるような体制をとっており、その時の体調や気分を伺いながら入浴をしていただいている。また、ご家族様のご要望も聞き個々にそった支援に努めている。	週2～3回、午前と午後に入浴を支援しており、希望があれば随時対応している。入浴拒否される方には、時間・日を替えたりして入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促がし安眠できるように支援している。夜間に不安感がある時は、ホールで職員と一緒に過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個々の服薬情報のファイルを作成し薬の作用、副作用、用法用量を確認できるようにしてある。ケースの色分け、写真を貼り一人ひとり管理している。体調の変化があった場合は主治医との連携を密にとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かした洗濯たたみや畑の世話など個別ケアを行っている。また、余暇時にはできる限りレクリエーションを取り入れ気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、以外にも日帰り旅行や季節ごとの行楽など出来る支援をしている。また希望に合わせて自宅へ帰られたり、外食に行かれたり、ご家族様のご協力を得ながら支援している。	雨天以外は田園の周辺や神社までの散歩をしているほか、年1回の家族旅行、自宅への外泊(盆、正月)、職員の外出時の同行へと、本人の希望により外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の管理は施設でお預かりしているが化粧品などの雑貨購入時にはご自分で支払い出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話が利用できるようにしている。職員は電話中、邪魔しないようさりげなく見守っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側に面したフロアの大きな窓からは日光もよく入り、田園風景が見渡せる。一年中季節を感じる事が出来る。室内は温度計、湿度計を用いて管理し、加湿器や空調を使用して居心地よく過ごせるように努めている。	食堂フロアは日当たりが良い。畳の居間があり、広角に作られた窓からは季節が感じ取られる。明るくすっきりとしたホールや廊下、また、使い勝手の良いトイレや浴室も整理整頓され、清潔感ある居心地良さを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを2ヶ所に分けて置き、畳みのスペースや玄関には長いすなどもあり日中思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していたタンスや布団などをお持ちいただき居心地よく安心して過ごしていただけるようにご家族様にご協力をお願いしている。	ベット、クローゼット、洗面台が設置されており、それぞれの好みに応じたテレビ、椅子、写真、衣類等が持ち込まれ、居心地良く過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーになっており、各所に手すりが付いている。玄関には、階段があり昇り降りできる方は使用していただいている。		